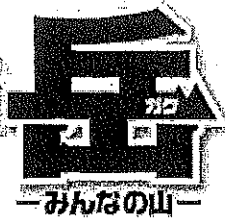


©2005 石塚真一/小学館



山登り10訓 (くん)

【長野県山岳遭難防止対策協会】

その1 命の道しるべ 登山計画書 は家族に託すメッセージ

- ◇登山計画書は、万一の場合の素早い捜索救助の手がかりになります。
 - ◇登山計画書は、家族に託すとともに警察署や警察本部にも届けましょう。
- ⇒長野県警本部への届出(メールも可)

その2 登りたい山より 登れる山 自分に見合った山選び

- ◇自分の体力や技術・経験に見合ったコースを選ぶことが大切です。
- ◇低山から経験を積み、登りたい山ではなく、登れる山を選びましょう。

その3 体力・装備・知識の総合力で 頂きめさず 登る前から体調管理

- ◇酸素が薄く、気圧が下がる高地では、十分な体力と万全な体調でなければ、発病やけいれんなどの思いがけないトラブルが発生します。
- ◇遭難者には「登る前から遭難している」と言われても仕方がないほどの軽装備の方がいます。経験者や登山用品店のアドバイスを受け、登る山に見合った装備と知識を備えてください。

その4 山のマナーは 命のマナー あいさつ交わし情報交換

- ◇「登り優先」「山側待機」「早出早着」などの登山マナーは周囲の登山者や山小屋への気づかいだけでなく、事故の防止にもつながります。
- ◇夕暮れ時や夜間の山小屋への到着などは論外です。暗くなると道迷い等により遭難する可能性が高まります。

その5 年齢考え ひかえめ登山 過去の体力 過去のもの

- ◇遭難者全体の78.5%が40歳以上の中老年登山者です。60歳以上では46.6%です。(平成24年)
- ◇過去の経験を過信せず、体力やバランスの衰えを自覚した、行動計画をたてましょう。

《3つの約束》

山を汚さない!

人に迷惑をかけない!

無事 家に帰る!

特別隊員「島崎 三歩」



©2005 石塚真一/小学館

その6 ヘルメット 命を守る必需品 頭部の事故が命取り

- ◇滑落や転倒で頭部のケガをする遭難者は4人に1人。
- ◇あごひも締めれば気持ちも引き締まります。

その7 山の天気は生死を分ける 天気予報 は命のお守り

- ◇天候の判断を誤り、撤退が遅れる遭難ケースが目立ちます。山岳地帯の気象の変化は急激です。気象のチェックと早めの判断が生死を分けます。
- ◇一般の天気予報は平地のものです。専門の山岳気象予報を調べてから登りましょう。

その8 山頂は通過点 下山道こそ 細心注意

- ◇遭難は、足腰にダメージが蓄積される下山道で多発しています。
- ◇体力消耗も加わり、集中力が失われるのも下山道です。無事帰宅が最終目標です。

その9 登山はスポーツ 観光気分が 遭難まねく

- ◇道迷いや疲労で遭難した人の多くは「考えが甘かった」とよく言います。スポーツでは、試合の前にトレーニングし、作戦を立てるのは当たり前のこと。登山もスポーツでピクニックではありません。
- ◇観光気分の人まかせでは、自分の命は守れません。登山は自己責任とはいえ、要請を受け実際に救助に向かう側は『命がけ』だということを忘れないでください。

その10 もしもに備える 山岳保険

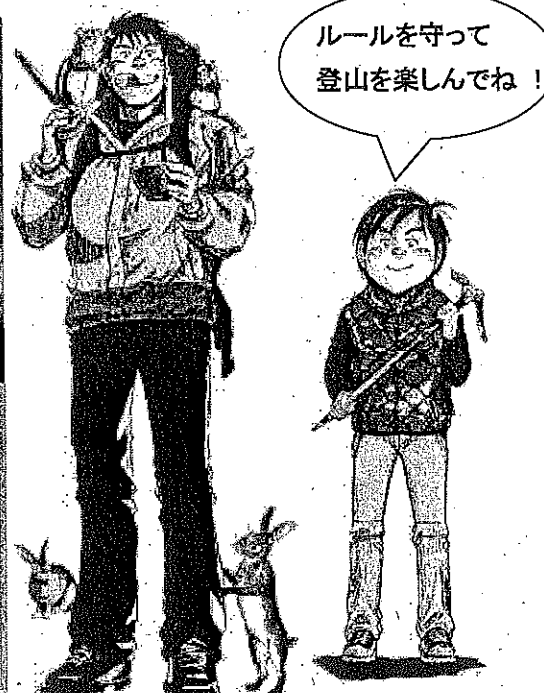
- ◇救助・捜索活動は多額の費用がかかり、家族が経済的にも精神的にも大きな負担を負うこととなります。
- ◇遭難は誰にでも起きる可能性があります。いざという時に備え山岳保険に加入しましょう。



槍ヶ岳 (北アルプス)

【発行】

長野県山岳遭難防止対策協会 防止対策部
(教育委員会事務局スポーツ課管理係)
電話：026-235-7447 (直通)
：026-232-0111 (代表) 内線 4469
F A X: 026-235-7476
Email: sports-ka@pref.nagano.lg.jp



©2005 石塚真一/小学館

山岳遭難により遭難者に請求される費用

○県山岳遭難防止対策協会救助隊員の日当・保険料

県警からの要請により、県山岳遭難防止対策協会救助隊員が出動した場合には、隊員の日当・保険料などが遭難者に請求される。

(県山岳遭難防止対策協会救助隊員の出動には、家族らの同意が必要)

(日当)

- ・夏山 30,000 円程度／1人 (状況により大幅に変動あり)
- ・冬山 50,000 円程度／1人

(保険料)

- ・13,540 円程度／7日間

○ヘリコプターの運航経費

民間のヘリコプターが出動した場合には、運航経費が請求される。

(民間のヘリコプターの出動には、家族らの同意が必要)

- ・500,000 円程度／1時間 (状況により大幅に変動あり)

山岳遭難防止対策について

～世界中のアルピニストが信頼し、訪れる山岳観光県をめざして～

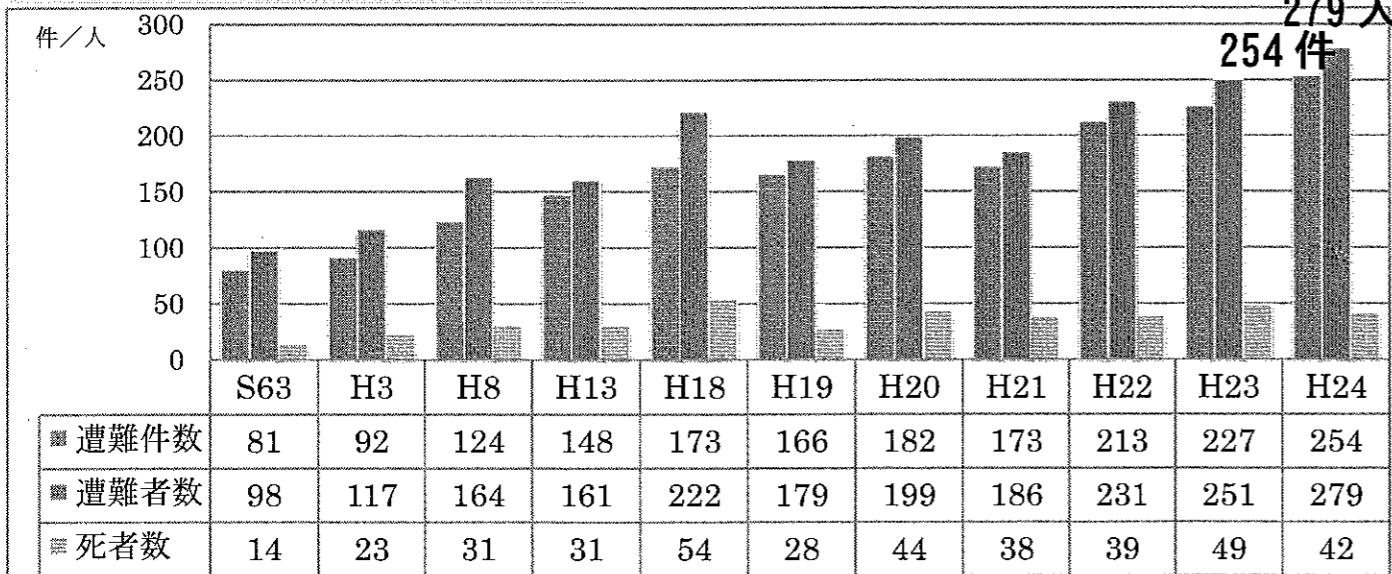
長野県山岳遭難防止対策協会（総務部、防止対策部、救助部）

1 本県の山岳遭難の現状と課題

- 中高年を中心とした登山ブームに加え、山ガールなど若者にも登山人気が高まっており、本県の山岳を訪れる登山者数は年々増加。一方、**山岳遭難発生件数**は、平成22年に200件を超えて以来、**3年連続して過去最多を更新する深刻な事態**。
- 平成25年ゴールデンウィーク中の山岳遭難件数は27件、9名の命が奪われた。これは記録のあるうちでは昭和46年に次いで過去2番目に多い。
- 平成24年の遭難者の約8割が、山岳会などに所属しない「**未組織登山者**」。未組織登山者は学習、訓練を受ける機会が少なく、危機回避知識・技術不足が予測され、正確で迅速な情報提供や研修等の充実について検討が必要。

- 平成24年中、長野県内を訪れた**登山者70万5,000人**（前年比10.5%増）
- 平成24年中、**山岳遭難254件**（前年比27件増）、**遭難者279人**（前年比28人増）
- 平成25年遭難発生件数、遭難者数は**過去最悪のペース**。
- **40歳以上の中高年登山者の事故が多発**。約9割は**長野県以外に居住**。

(1) 山岳遭難発生件数と遭難者の推移（単位：件/人）



(2) 平成25年 遭難発生状況【6/30速報値】（1月1日～6月30日まで比較）（単位：件/人）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出等	遭難者計
平成25年	88	21	4	49	29	103
平成24年	64	19	4	31	30	84
前年比	24	2	0	18	-1	19

遭難件数 増

未然防止対策を強力に推進!

2 主な山岳遭難防止対策事業

